

エビアマモ *Phyllospadix japonica* Makino

【評価理由】

個体数階級 2、集団数階級 4、生育環境階級 2、人為圧階級 1、固有性階級 2、総点 11。外洋性の海産種子植物で、愛知県では生育地が局限されており、存続の基盤が脆弱である。

【形態】

沈水生の多年生草本。根茎は短く、多くの根を出して岩に固着し、密に葉と、古い葉が枯死した後に残る黒褐色の繊維をつける。葉は長い線形、長さ 25~55cm、幅 2~2.5mm、先は円頭で凹端である。花期は 3 月、花序は根茎から出た短い枝につき、葉鞘に包まれ、肉穂状、やや反り返って、辺縁に葯隔付属突起をつけ、雌雄異株、花は 1 個の雄ずいまたは雌ずいからなり、2 列に並ぶ。

【分布の概要】

【県内の分布】

東：17 田原東部 (小林 74965, 2002-5-27)、18 田原西部 (芹沢 52331, 1989-7-17)。尾：44b 南知多 (篠島, 小林博人 24, 1938-7-10) で採集された標本もある。

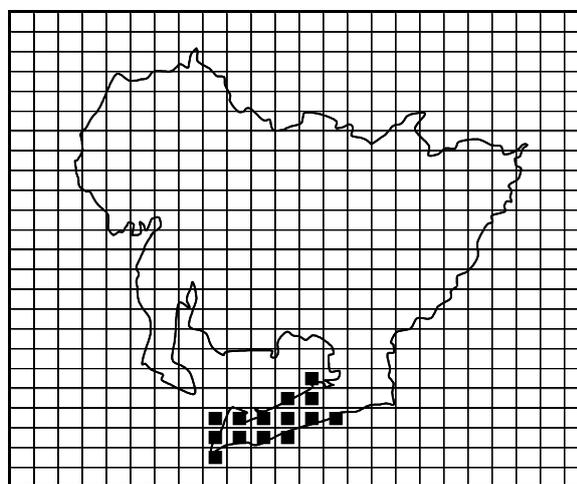
【国内の分布】

本州 (関東地方北部以西) と九州北部に生育する。

【世界の分布】

日本固有種。

要配慮地区図



【生育地の環境／生態的特性】

海産の種子植物で、外洋に面した潮間帯～漸深帯の岩礁に生育する。

	山地	丘陵	平野	海浜
森林				
草・岩				
湿地				
水域				○

【現在の生育状況／減少の要因】

愛知県では、もともと本種が生育できるような岩礁が少なく、生育地は局限されている。ただし、その場所では個体数は多い。外洋なので水質が変化するおそれは少ないが、観光地であるため、開発工事等により岩礁が破壊される可能性がある。

【保全上の留意点】

護岸工事や開発事業を計画する際には、特に配慮が必要である。地形を改変しなければ、当面は現状どおり存続するものと思われる。

【特記事項】

和名は、花序の形がエビに似ているからである。

【関連文献】

保草本Ⅲp.406, 平草本 I p.14, 平新版 1 p.128, SOS 新版 p.159,161.